

「医療経済学会」設立趣意書

21世紀の超高齢社会に入り、生命と健康に対する国民の関心は、かつてないほど高まっています。一方で、国民医療費が増加しつづける中、国民皆保険制度を維持しつつ、制度の持続可能性を維持することが課題となっています。こうした状況の下、医療の質の引き上げと医療の効率化の双方を達成することが求められています。

この困難な課題を解決するためには、医療経済学の知識と方法が不可欠であると言えます。わが国においても、1990年代以降、医療経済学は急速に発展してきており、研究者の数も増えてきています。しかしながら、これまでこれらの研究者がその研究成果を発表する場として確立したものがあつたとは言えません。また、経済学、医学など各分野の研究者がそれぞれのアプローチから研究を行ってきたものの、相互の交流は必ずしも活発ではありませんでした。

われわれは、医療経済学の研究者を広く糾合し、医療経済研究の活発化を図るべく、ここに「医療経済学会」の設立を企画しました。この学会が医療経済学の研究成果の発表の場として、広く研究者が交流する場となることで、その学問的成果に基づく政策や医療現場での実践が行われ、ひいては質の高い効率的な医療が提供されるようになることを期待するものです。

大学・行政・企業などにおいて研究をおこなっている関係者の方で、われわれの設立趣意に賛同する方々の積極的な参加を期待しております。

平成18年2月15日

「医療経済学会」設立発起人一同

代表 西村 周三